

# Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかし合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.41 2015年8月号

## ザンビア 母子保健プロジェクト

ムワブラ地域での進捗状況、モンボシ地域での研修について、報告します。

☞p.2-3

## ザンビア募金進捗報告

皆様からのご支援いただいた寄付金の用途について報告します。

☞p.4-6

## 支援のカタチ

元青年海外協力隊であり、現在TICO事務局で勤務する来島孝太郎がお伝えします。

☞p.7

ホームページ、ブログ、Facebookでも情報発信しております。巻末を参照下さい。



橋の完工式典でのテープカットのようす（4ページ参照）

# チサンバ郡 総合的な農村母子保健

## ムワプラ地域での活動が本格始動！

2014年10月号（No.38）でご紹介したムワプラ地域は、モンボシ地域と同じチサンバ郡に属する農村地域です。ここにもモンボシ地区と同じく簡易無床診療所があり、1名の医療スタッフと6つの住民保健委員会が地域の健康のために働いています。

ムワプラ診療所は多くの課題を抱えています。まず一つに電気がないこと。これでは、ワクチンの保管が出来ないため、モンボシで行っているような出張健診を十分には行えません。出張健診は、地域住民にとって重要なサービスであることはもちろん、地域での受け皿となる住民保健委員会が本領を発揮できる機会。この出張健診という定期活動がないムワプラでは、住民保健委員会は名ばかりの存在です。

また、開設してから4年未満で4回も、唯一の医療スタッフが交代し続けているという事実。未電化のためサービス内容が限られていることと合わさり、ムワプラ診療所は未だ地域から頼りにされる診療所とはなり得ていません。それはまた、地域を代表する住民保健委員会と診療所との関係を弱いままにし、そしてそれは健診など保健医療サービスの受診促進活動や、正しい保健知識を伝える啓発を行うはずの住民保健委員会が活動的でない一因となっています。

住民保健委員会は、また地域の状況や要望を診療所や行政（郡保健局）に伝える役割を担っています。例えば、村には安全な水源が全くないとか、トイレを持っていない家庭が全世帯中いくつあるか等々。地域の保健状況改善には診療所、住民保健委員会それぞれの能力強化と合わせて、診療所と住民保健委員会が一つのチームとして連携・協力していくことが不可欠です。

行政としての診察の運営、管理、監督



地域と保健医療サービスをつなぐ窓口、地域住民に対する保健教育の実施

保健医療サービスの担い手として診療と健診（乳幼児、妊娠婦）の実施

## 瀬戸口 千佳（コミュニティ活動専門家／業務調整員）

プロジェクトとしては、まず5月に住民保健委員会に対して自らの活動を振り返る機会を設けました。そこでは、「住民保健委員会」そのものが無い、組織として活動していない（※個人で熱心に

活動している委員会のメンバーは一定数いる）、地域や診療所とのつながりが希薄であるなどの前述した課題がはっきりと表れていました。



活動計画について、話し合いのようす



活動計画について、話し合いのようす

これらの課題に対処すべく、全ての住民保健委員会の活動計画として出張健診（5歳未満児健診）をテーマとして取り上げました。この活動計画を実施する中で、組織として活動する経験を積み上げていくこと、また内容として意味のある出張健診を実施していく力を養うことを狙います。また、先に述べたように出張健診を毎月の定例活動として確実に実施していくことは、ムワプラ診療所と住民保健委員会の連携を推し進めることにもつながります。

モンボシで得た経験と教訓を生かしつつも、ムワプラがおかれている状況を考慮した形で診療所と住民保健委員会のチーム力を向上させていきます。

モンボシとムワプラの両診療所に、確実な出張健診の実施を主な目的としてバイクを配備しました。モンボシ地域では、ドライバーや燃料の確保に苦心しつつも、これまでの経験の積み重ねもあり自力での出張健診が実施されています。

## モンボシ地域での活動

モンボシとムワプラの両診療所に、確実な出張健診の実施を主な目的

としてバイクを配備しました。モンボシ地域では、ドライバーや燃料の確保に苦心しつつも、これまでの経験の積み重ねもあり自力での出張健診が実施されています。



左端にあるのが、今回配備したバイク。（モンボシ地区にて）

また、住民保健委員会間の相互学習の機会として、昨年度から実施している活動計画についての成果発表会を4月に実施しました。全住民保健委員会から90名近くが参加し、質疑応答が活発に行われました。

# を支える”地域力”強化事業

杉本 尊史（保健医療専門家）



産褥/新生児ケア研修のようす

さんじょく

## 産褥/新生児ケア研修実施報告

妊婦さんが赤ちゃんを産んだ後の6週間を、産褥(さんじょく)期と呼びます。また、生まれて1ヶ月以内の赤ちゃんは新生児と呼ばれます。子どもが生まれるというのは、おそらく親にとって最も感動的な出来事の一つですが、生まれた直後から赤ちゃんにとっては人生で最も危険な時期が始まり、また世話をするお母さんにとっても、命に関わる合併症が起こりうる時期です。

2015年5月13日、産褥婦と新生児に関わる住民保健ボランティアを対象に、そのケアに関する勉強会をモンボシ診療所で開催しました。最新の報告によると、1996年以降ザンビアでは5歳未満児死亡率が減少している中で、新生児死亡が占める割合は増加傾向にあります。しかしながら、新生児死亡の主な原因は、早産や低出生体重、無呼吸、感染症など極めて医療的なもので、それに対してモンボシ診療所のような貧弱な設備や、住民保健ボランティアのような非医療者の手で一体どれだけのことができるのか、私自身判然としないところがありました。

この日はもやもやした気持ちでボランティアたちの前に立ちましたが、参加したたくさんの人たちの熱心な姿勢に逆に勇気づけら

れることになりました。彼らは村の中でお産に遭遇したり、調子の悪い赤ちゃんを最初に目にする最前線の立場にあつて、日本の整備された環境で働いている私よりよっぽど切実味を感じていました。生まれた赤ちゃんが泣かないときはどうするのか、いつからお風呂に入れるべきなのか、そんな具体的で差し迫った疑問が話題になりました。次から次に手を挙げてなされる活発な発言に対して、私は医学的な見地から若干のコメントを付け加えながら、いつしかもやもやした気持ちが消えて、彼らの話を聞くことに夢中になっていました。

私がモンボシの住民保健ボランティアたちに対して研修を開催するのは今回で3度目になります。1回目は妊婦健診、2回目はお産、そして今回は産後の産褥/新生児ケアがテーマでした。今後は、一連の母子保健サービスが途切れることなく確実に実施されていくような枠組み作りを焦点にして、診療所スタッフと協力して取り組んでいきます。

2014年4月から開始されている本事業は、JICA（国際協力機構）から「草の根技術協力事業」として委託を受けて実施しています。

## ザンビア募金

## 橋建設プロジェクト 遂に完結！

工事完了日！橋の上で記念撮影。パシャリ！



完成したマケニ - ムエンバ橋



本プロジェクトは、NPO法人道普請人に協力を要請し、2014年に始動しました。マケニ地区とムエンバ地区の境界に流れるモンボン川は、雨期になると渡れなくなるほど増水してしまいます。道が寸断されることで起こる教育や医療へのアクセスの悪化、農作物を運搬できないことによる収入獲得の機会損失などの状況を改善するため、人や車が安全に川を渡る橋を建設すること

に至りました。橋建設にあたっては、村々からの資金調達やワーカーの雇用など、村で出来る作業は全て村の有志からなる地域開発委員会が担い、今後も委員会の主要メンバーを中心に橋の維持管理が行われることが期待できます。

2014年は基礎工事、2015年に全行程を終え、6月29日に完工式典を迎えました（表紙写真を参照）。

### 地域開発委員会 主要メンバー



ポーカークフェイスで冗談を飛ばす、誠実で真面目なリーダー、フランシス＝マズィラ。英語とトンガ語の通訳はお手の物。



32歳にして、5人の子持ち。優しい笑顔が印象的なサブリーダー、フリガー＝ハークワンバ。マケニ村の中心的人物。

### 日本人技術者



左：木村亮 代表、中央：大東優馬さん、右：芝村裕人さん

本プロジェクトに携わって下さったNPO法人道普請人の皆様。地元住民だけで橋が作れるよう、地域開発委員会のメンバーを中心に建設指導をしていただきました。

# ☆進捗報告

柳下 優美（業務調整員）

## 学校校舎修繕プロジェクトが進行中

香川県の公益社団法人セカンドハンド\*から、教育支援のための資金協力をしていただき、生徒が安全かつ衛生的に学習できる環境を作ること为目标に、ムエンバ・プライマリースクール、カムロブエ・コミュニティスクールの校舎修繕を行っています。

\*セカンドハンドは、主にカンボジアの教育支援や医療支援などを行っている国際協力団体です。

### ムエンバ・プライマリースクール

政府から指定を受けている学校ですが、政府からの補助はなかなか届いていません。窓やドアが無く、屋根にも穴が空いており、気候が良い時期でも、決して勉強に集中できる環境とは言えませんでした。

＜支援内容＞

屋根、窓、床、窓枠以上の壁を一新し、レンガ作りの外壁をセメントで綺麗にコーティングします！



支援対象校舎

### カムロブエ・コミュニティスクール

支援対象の教室は、床のセメントが既に剥がれているため、土埃が舞い、生徒が咳込む状態でした。椅子や机も十分に無く、写真の様に要らなくなった本棚に座ったり、レンガの上に座ったりして授業を受けていました。

＜支援内容＞

屋根、窓、床、壁、全てを一新します！また、新品の机を40台投入します！



支援対象校舎

工事をのぞいてみない？ ムエンバ・プライマリースクールはもうすぐ工事が終わるらしいニャ！



▲ 6月5日：修繕工事の為、老朽化した屋根の取り壊しが行われました。



▲ 6月19日：新しい屋根の設置に向け、支柱が作られました。



▲ 7月24日：レンガの壁をセメントで綺麗にならし、壁が新しくなりました。

もうすぐ完成！



ムエンバ・プライマリースクールの生徒たち

6月、7月と、ムエンバ校の勢いに押された二か月でした。訪問する度に大きな進展が見られ、私自身が励まされる思いでした。カムロブエ校では、他に教員住宅の建設中（2015年6月号 No.40参照）で、本案件の修繕工事取り掛かりに時間がかかってしまいましたが、7月20日に資材搬入し、現在工事中です。教員や生徒は、「いつも本当にありがとう。感謝しています。」と話しています。

## 家畜薬浴槽ディップタンクは完成間近！

ディップタンクの全体写真（5月21日現在）



## 2011年に始まったディップタンクの建設が、完成を迎えようとしています！

ディップタンクは、ンブドゥ村の人々の財産とも言える「牛」を病気から守るため、牛の身体についたダニ（感染症の媒介者）を消毒液で落とす施設です。農作業や家畜の世話で忙しい村民が、空いている時間を使って少しずつ建設を進め、現在、完成の一手手前まで作業が進みま

した。建設チームのリーダーが現場に現れない、資金が足りないなど、様々な問題はありましたが、今は完成に向けてチームメンバーが足並みをそろえています。

次回は完成の模様をお伝えしたいと思います。



床の整備作業のようす



内壁の整備作業のようす



ブロックを積んで壁作り

## 猫目線



ザンビアの国民の祝日は、1年に何日あるか知っているかニャー？1月1日（元日）、3月第3日曜日（青年の日）、5月1日（メーデー）、5月25日（アフリカの日）、7月第1日曜日（英雄の日）、7月第1火曜日（統一の日）8月第1日曜日（農民の日）、10月24日（独立記念日）、12月25日（クリスマス）で、答えは9日間。

8月の農民の日は、日本で言うところの花火大会の時期、ザンビアでは花火はあがないけれど、ザンビア国軍が本物の銃や大砲を空に向けていっせいに撃つ

時、銃からオレンジ色の火が出てバンバンと耳をつんざくような大きな音がするそうニャ。

そして、ザンビアはなんと言っても農業の国。農民の日の週末、毎年農業・商業の展示会（The Agricultural & Commercial Show）\*が今年も8月1日から3日間、ルサカ市中心部にあるショウグラウンドと呼ばれる広大な敷地で開催されたそうニャ。生きた家畜やトラクターなどの農業機械、種、セメント、灌漑用ポンプなど様々なブースが設置されて、会場のあちこちでは音楽やダンスも披露され、多くの家族連れでにぎわっていたんだとか。

ご主人も朝からバスに乗って出かけていったニャ。ショウグラウンド内の競技場ではプラスバンドの演奏に合わせて軍隊

が行進したり、フェイスペイントをしてもらった子供たちがヘリコプターが飛んでいるのを見ながら、アイスクリームを食べたり、シャボン玉を吹いたりしていた、とご主人が話していたけど、ザンビアはどんどん発展しているってことかニャー。

ふわああ〜アタシは、これからちょっと昼寝。。

\*農業・商業の展示会（The Agriculture & Commercial Show）：

このイベントは歴史が古く1919年に第1回が開催されてから現在まで続いています。イベントがショウグラウンドで開催されるようになったのは1951年のこと。唯一1921、1942、1946年は世界大戦で、1966年はローデシア独立に伴い英国空軍がショウグラウンドを占有したため開催されなかったようです。

# 支援のカタチ

## ～ 特定非営利活動法人 TICO 来島孝太郎の場合 ～

はじめまして、5月から事務局で国内業務に従事している来島孝太郎（きじまこうたろう）と申します。私は、昨年11月末まで、青年海外協力隊としてアフリカのマラウイの中高等学校で理科教育に携わってきました。任地の村での2年間は、今の日本では考えられないような生活でした。水道はなく井戸から水を汲み、お湯を沸かしたり料理を作るためには毎回炭に火をおこさなくてはなりませんでした。日本の生活に比べればやはり不便ですし、時間もかかります。しかし、時間に追われず、人と人との関わりを大切にする村の暮らしの中に、豊かさを感じました。現地の人々と一緒に、時には衝突することもありましたが、お互いに補いながらできることをやっていこう、そういう気持ちで活動してきました。

そして帰国後、マラウイの隣国ザンビアで、村の人々に寄り添う支援を行うTICOに心惹かれて門戸を叩きました。現在、広報やイベント実施にかかわり、ご支援いただいている方々を始め、より多くの方々にTICOの活動を共有できるように業務を行っています。そんな中、6月にTICO合宿に初めて参加

し、学生さんと一緒に農作業や火起こし体験しました。そこでふっと気づいたこと、それは、農作業も火起こしもマラウイでは当たり前だったなあということです。たぶんこの感覚は、一般に持たれている感覚ではなくて、いわゆる途上国と呼ばれる国の農村で村の人々と「一緒に暮らした」自分自身の経験があるから感じたことなのだと思います。私のこの経験を活用し、日本国内において、途上国に関心を持っている方々に現場とつながりを感じてもらえるように、TICOのメンバーの一員として活動していければと思っております。



▲ 青年海外協力隊として赴任（2012年9月から2014年11月）した学校の教師と生徒達と。

### 「安保法制と国際協力」

TICO代表 吉田 修

8月1日、吉野川市山川町のさくらcafeにて、ケニアで孤児院を運営されている松下照美さん（モヨ・チルドレン・センター 主宰）を講師としてお招きし、地球人カレッジが行われた。その中で松下さんは、安保法制が成立すると、日本のことを「アメリカと一緒に戦争する国」、すなわち「敵」と考える人達が増えるだろうから、国際協力活動はこれまで以上に危険になるだろうと懸念していた。ケニアでは、大規模なテロが続いている。日本は敵だと思われたら、人道支援を行っている日本人も標的になりかねない。

しかし、問題はもっともっと根源的な所にあると考える。安倍総理は、歴代総理同様に外交の場で「欧米諸国と共通の価値観」という言葉をいつも使っている。しかし本来の意味での共通の

価値観とは、法の支配・自由・民主主義のことであり、独裁・抑圧・戦争から人々を守り人権を保障するために、人類が長い時間と大きな犠牲を払って作り上げたものである。日本国憲法には、この事がしっかりと書かれており、権力者の暴走が起きないようにしている。しかし、自民党の憲法改正案は、そうはなっていないようだ。憲法改正案の中では、国民は国家のために義務を負い、公益に反すると権力者が判断したら弾圧されると解釈される。これは「欧米諸国と共通の価値観」とはほど遠いものだ。戦後レジームからの脱却と言うから、アメリカと本当の意味で対等な国になるつもりかと思ったら、安保法制は日本国民のことを後回しにした。沖縄の基地も日米地位協定も米軍機の騒音も、戦後そのままである。

日本は今、戦後最大の危機を迎えている。最大の原因は投票率の低下である。先の総選挙の投票率はわずか52.7%。

そして、自民党の比例代表における絶対得票率はたったの17%にもかかわらず、8割近い議席数を得たのである。

2000年の吉野川可動堰の是非を問う住民投票の時にみんなで持ったプラカード「投票に行こう」のすごさを改めて思う。

みなさん、民主主義の原点に戻って投票に行こう！



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。

写真：松下さんの講演にて（右下）

## 事務局長 富士庸二のつぶやき

### 架け橋

先日、NPO法人 道普請人（木村亮理事長）の協力で、モンボン川に手作り感満載の橋が完成しました。見事なローテクです（あえてローテクと言わせてもらいます）。ほとんどすべてが住民の手で作られました。また、資機材のほとんどはザンビア国内で入手可能な

ものばかり、日本から持って来たものといえば、手荷物で運べる程度の工具くらいです。

・・・いやいや、もっと大事なものを持って来ていました。若い力です。道普請人の芝村さんと大東さん。数ヶ月もの間、彼らは泊まり込みで、村人たちと一緒に橋を完成させました。彼らが村人に残した技術は、大きな財産といえるでしょう。

ハイテクな機械の導入で課題を解決しようとするのは、簡単そうで実は難しい。あらためて、適正技術とはなにかを考えさせられました。



▲ 現地に泊まり込みで暮らす様子

## ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

### 寄付をいただいた方（書き損じハガキ含む）

原田恵子、田淵規子、ヒラオカ薬局、秋月益子、原田栄枝、大久保洋一、渡忍、白石勝美・久代、日浅芳一、公益社団法人セカンドハンド、花井郁恵、佐古千代、井上茂樹、森本賀壽子、船津まさえ、石橋万理、佐藤晃、柳下實・幸子、高木、石岡、合同会社Plan-B、匿名3名

● 2015年5月1日分～2015年7月31日  
● 順不同、敬称略

### 会員を更新された方

松田俊太郎、山本秀樹、佐藤寧子、山田こどもクリニック、古川彩香、塩井英子、上原正敏、特定非営利活動法人AMD A、ダスキン川島、池北靖・洋子、K's Pet Clinic、松田千文、柳崎義美、新野和枝、竹下みどり、五藤幸根、大西和賀、篠原隆史、松本多江、原田栄枝、萩森健治、田淵元樹、唐住洲子、大久保洋一、石橋万理、富峯康代、船津まさえ、廣瀬文代、鈴木薫、福井康雄・照実、

浮森和美、地造津根子、香西邦明、古川久美子、吉見千代、渡部知美、吉田純、峯裕恵、松田佳子、中村純子、寺田由紀、寺口美香、田岡敬子、佐治朝子、佐古和雄・友美、酒巻栄子、井原宏、木本豪、近森憲助、瀬戸口千佳、近森由記子、富士庸二・美幸、吉田修・益子、匿名1名

### 新たに入会された方

村上久子、来島孝太郎

## \*TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

### 年会費

|         |         |
|---------|---------|
| 賛助会員 個人 | ¥12,000 |
| 学生      | ¥6,000  |
| 団体      | ¥15,000 |
| 正会員     | ¥12,000 |

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。



TICOニュースレター Face to Face 第41号

2015年8月発行 発行人：吉田 修  
編集：来島 孝太郎  
近森 由記子

## \*ご寄付をお待ちしています。

郵便振替 — 01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店（店番号344）

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ）ティコ

指定寄付 — 該当する項目を振替用紙の通信欄にお書き添えください。また、銀行振込の場合は、該当する項目をお知らせください。

♣ ザンビア募金 (ザンビア)

♣ 学費支援 (ガレ)

クレジットカード — ホームページをご覧ください。

募金箱 — さくら診療所（徳島県吉野川市）に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこから買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じハガキ — 事務局までお送りください。

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271（平日 9:30～18:30）

メール：info@tico.or.jp / ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq

ブログ：blog.goo.ne.jp/tico\_blog